



# 辛い時も支えてくれた仲間、心から感謝

追田さおりさん 元バレーボール選手、オリンピック2大会(ロンドン・リオ)出場

## トマトが高級メロンになろうとしたって無理だよ

コートの後方から打ち込むバックアタックを武器とし、2大会連続の五輪で活躍した追田さん。しかし、高校卒業後に入団した日本最高峰の戦いを繰り広げるVリーグ所属の「東レアローズ」では、毎日泣いていたとのこと。周りは自分より



選手時代の追田さん

写真:時事通信提供

も上手な選手ばかりで、練習に行けず……。他の選手と比べては、自分は全然だめだと落ち込む日々。そんな時に先輩がかけてくれた「トマトが高級メロンになろうとしたって無理だよ」という言葉が追田さんを救ってくれました。「高級メロンにはない良さがトマトにあるように、私も人と違って当たり前。私らしく頑張ればいんだと思えて、前向きな気持ちになれました。バックアタックも、私らしさを追いつめて手に入れた武器と言えるかもしれません。」

## 苦しい時には、仲間に助けけてもらえばいい

そんな追田さんは、小学校3年生からバレーボールを始め、高校でも厳しい練習を強いられることなく、楽しく部活動を満喫していたそうです。しかし、東レアローズではそれまでは全く異なる厳しい環境に。そんな日々を振り返りながら、話してくれました。



「バレーボールだけでなく、スポーツはまずは楽しむことが大切です。夢中になってやれば、楽しさはもっと大きくなります。でも、上を目指していくと必ず苦しい事があります。練習が辛くなったり、上達できなくなったり。でも大丈夫！ その時には、仲間や支えてくれる人たちがみんなの周りにいますから。苦しさを自分だけで抱え込まずに、助けけてもらいながら進んでいけばいいんです。私は、引く張つてもらったから成長できました。支えてくれた人たちに心から感謝です。あの悩み抜いた日々もとてもいい経験ですね」



「フェアプレイ宣言」しました!!

【答えA】初めて42.195kmを走るようになったのは1908年ロンドンオリンピック。当初42kmの予定でしたが、イギリス女王アレキサンドラの「スタートとゴールを目の前で見たい」というわがままに添えて位置を変更したため、中途半端な距離になったそうです。



**問題** マラソンの距離は、どうして42.195km?  
**A** イギリス女王の指示  
**B** 占いによって決定  
**C** 地球の直径のちょうど1/300だから

スポーツものしりクイズ

# 思いどおりしよに渡したボトル

女子マラソン 松田瑞生選手

2018年1月 大阪国際女子マラソン 試合後の会見にて

(記者) なぜこのような行為をしたのですか？

ライバルと正々堂々と試合をしたからです

マラソンは最後まで走り切るために途中の水分補給が重要だ

しかし、安藤選手はボトルを取り損ねてしまった

給水所

それを見た松田選手は安藤選手に近づき

レースは松田選手が優勝し安藤選手は3位となった

東京2020 オリンピックの代表選手につながるとても重要なレース

安藤友香選手と松田瑞生選手はトップランナーとして注目されていた

松田瑞生選手 安藤友香選手

自分のボトルをサツと渡したのだ

(記者) 松田選手からボトルを渡されましたね

松田選手から

こういったところもマラソンの魅力だと感じましたし

松田選手の人間性は見習うべきだなと感じて走っていました